

第3回 室蘭市パートナーシップ制度検討委員会 会議録

1. 日 時

令和6年2月13日（火）18時00分～19時00分

2. 場 所

室蘭市役所 2階3号会議室

3. 出席者等

(1) 出席委員 5名

木幡委員長、沼田委員、佐藤委員、大井委員、足立委員

(2) 欠席委員 なし

(3) 事務局 4名

生活環境部 関川部長、地域生活課 中野課長、山崎主幹、橋場主任

4. 会議次第

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 前回会議録の確認

(4) 議事

パートナーシップの宣誓の取扱いに関する要綱（案）について

(5) 閉会

5. 議事

①パートナーシップの宣誓の取扱いに関する要綱（案）について

～事務局から資料に基づき説明～

（A委員）

制度導入前の市職員に対する研修は、今の時点でどのようになっているか教えてください。

（事務局）

市職員向けのガイドラインを作成して2月6日に庁内で研修会を開催し、関係課の職員が参加しております。今後も多くの職員に広がっていく、取り組みを継続していきたいと考えております。

（A委員）

どのような研修内容だったのか教えてください。

（事務局）

性の多様性についての基本知識に加えて、行政としての窓口対応や職場内でのハラスメントなどについての内容です。

（A委員）

リーフレットについて、関連施設に置くだけではなく、苫小牧市でも行っているように町内会に配布したり、男女平等の施設に来場された方に配布するなど、他に活用方法を考えていますか。

（事務局）

まずは、公共施設や学校等の関連施設に配布を予定していますが、今後は、研修会やセミナーなど関連

する取り組みでも配っていただくことを検討しており、広く周知していきたいと思っています。

(A委員)

町内会に回覧板で周知するなど、多くの人の目に触れる手段も必要なので、考えていただけるとありがたい。

(B委員)

男女平等参画センターでも女性団体の活動が結構あるので、市といろいろ相談しながら順序出でてPRしていくことも必要です。

(A委員)

滝川市や苫小牧市などは、まずは拡散型で市民全体にPRをしており、情報として提供するためには、窓口を広げて大量に拡散しないと市民に伝わらない。その後に、順序立てて周知する方法が良いと思います。

(C委員)

要綱で、協定していない市町村へ引っ越した場合、受領証等を返還することになっていますが、そもそも法的な行為ではないし、返還となると当事者が寂しい思いをすることもあるので、記念に持っていたとしても良いような気がします。どのような理由で返還しなければならないのでしょうか。

(事務局)

受領証を提示することで家族と変わらない対応を受けるための証明書として活用できますので、例えば、パートナーが解除された場合に受領証を悪用されることを避けるため、返還という要件を設けておりますが、記念として持っていたいという要望に叶えられる方法があるかどうかは、調べたいと思います。

(C委員)

例えば、運転免許証やパスポートのようにパンチ穴を空けるなどして、記念に持っていられるようにすると良いと思います。

(委員長)

周知方法として、市のホームページにも掲載するようですが、ページの深い階層に掲載されていて見つけづらいというパターンも良くありますので、最初のうちはトップページにも掲載されるのでしょうか。

(事務局)

ホームページの最新情報の欄には掲載されますが、時間が経つと消えてしまいますので、XやLINE等のSNSでもお知らせして、そこからホームページに移動してもらう工夫も必要と思っています。

(委員長)

申請書は、自分のパソコンでダウンロードして印刷したり出来ますか。

(事務局)

要綱や様式は、全てインターネットに掲載しますので、そこから出力していただくことも可能です。ただし宣誓書は署名が必要なため、手続きに来られた際に自筆で書いていただく予定です。

(A委員)

ポスターのQRコードは、ホームページにリンクしているのでしょうか。そこから申請書類まで分かりやすくたどって行けるようになっていないと良いと思います。

(事務局)

リーフレットとポスターにはQRコード載せているので、できるだけわかりやすく目的の申請書等にたどり着けるようにします。

(委員長)

ポスターやリーフレットなど、その後も維持管理をしっかりやらないといけないと思いますので、皆がわからなくなってしまうまいよう気をつけて下さい。

(事務局)

リーフレットとポスターにはQRコードを載せているので、できるだけわかりやすく目的の申請書等にたどり着けるようにします。

(D委員)

学校にもリーフレットを配るようですが、中には、トランスジェンダーだけではなく、いろいろな性のマイノリティの子がおり、次々と新しい子が入ってくるので、学校には常に置いておくような体制を取っていただき、その子たちがアクセスしやすいようなアイデアも考えていただければと思います。

(A委員)

札幌のある団体では、学校も認識していることをわかってもらうために、レインボーカラーの旗を目に見えるところに置くようにしていると聞いた。レインボーフラッグをできるだけ生徒の目につきやすいところに置くことで、当事者じゃない生徒にとっても、こういう人たちがいるということの理解促進につながると思うので、そうしたことも両輪で進めていただきたいと思います。

(B委員)

私は人権擁護委員もやっていますが、中学校では、マイノリティに関する講習をどんどんやっています。子どもたちの方が感性が強くて、私たちが遅れをとるぐらい、今の子どもたちは悩んでいるんですと先生たちがおっしゃるぐらいですから、これはどんどん進めていかなければいけないと思っています。

(D委員)

中には心がシャイだったり恥ずかしかったりして、みんなの前ではリーフレットを取っていけないような子もいますので、小さいカードか何かを保健室に置いて、ずっと持っていけるような工夫があれば良いと思います。

(B委員)

学校では、先生方がすごく前向きで一所懸命なので、人権教室に行った際にでもPRしてみようと思っています。

(C委員)

私が子どもの頃は、見えないところであったかもしませんが、こうした取り組み自体なく、この10年でだんだんと広がってきていると思います。そう考えると、今後5年、10年でまた違うことになっているかもしれないので、アップデートは必要かなと思います。

(事務局)

制度は、日々変わってきますので、何でもお金をかけるということではなくて、いろいろな方法を活用して、情報周知を考えていきたいと思っています。

(A委員)

もしかしたらLGBTという言葉もなくなって、垣根なくソギ・ソジで人間は一緒だという感覚に変わってくる時代が来て欲しいと願っています。

(委員長)

全世帯に広報紙が配られるので、この記事でこういう人たちがいるということ、家族の中で話題になってくれるとありがたい。まずはパートナーシップ制度がメインですが、こちらの方もクローズアップするとなお理解が進むと思います。アウトィングなんて、本当に意識しないでやられる方っていると思いますが、こういうふうを書いてあると、やっていけないことだと理解が広がっていく。

(A委員)

アウトィングは善意でやってしまうことがあって、カミングアウトしようかしないか悩まれている子どもたちが、何かの拍子にアウトィングされて、あなたは何々だったんだねって言われたときのショックは、本当に自殺を招くような衝撃なので、やはりアウトィングだけは、強く皆さんに向けて言っていきたいと思います。カミングアウトについては、それぞれの価値観があるので、するしないは自由なんです、アウトィングだけは絶対禁止事項で、もっと強くこれからも言い続けていかなければ。

(B 委員)

広報に載ってみんなにPRできるようになるのは、良い機会なのかもしれません。何もないと、みんな有耶無耶になってしまいますが、室蘭市も始めたんだ、他の市もやってるというのを、知らせていければ良いと思います。

(D 委員)

様式第3号のパートナーシップ受領証カードですが、これには本人氏名とパートナー氏名の欄があり、2人でそれぞれ1枚ずつ持つと思いますが、自分のカードとパートナーのカードでは、名前が逆になっているのでしょうか。

(事務局)

その通りです。

(委員長)

受領証の裏面の「この宣誓書受領証の提示を受けた方へ」というところが、ここにいる我々は問題ないですが、全く知らない人がパッと見せられても何それとなってしまうので、なかなかすぐにはいかず地道な活動が必要と思いますが、これもどんどん広まっていけば、そのうちそれが普通になってくる。

(A 委員)

とりあえずは、市の担当セクションの方に見せる場合が多く、なかなか一般の方に見せることは少ないと思います。あと医療機関は市立病院以外にも、市内の全病院に周知するのでしょうか。

(事務局)

医師会を通じて周知する予定です。

(A 委員)

最後に当事者として発言させてください。当事者というのは一杯一杯なんです。いろんなことで苦しみながら限界の状態にいるので、焦る気持ちもあるということを少しご理解いただきたいと思います。当事者達は、本当に行き詰まっており、今ようやく光が見えてきた状況になるということを知っていただければと思います。

(D 委員)

私はカミングアウトから時間が経っているので、だいぶ生活も慣れてきたところではありますが、やはり最初はわかってほしいという気持ちがあって、少しずついろいろな人に相談しながら進めていって、職場の方にもカミングアウトして勤務させていただいている。あの人はなんで女の格好してるんだと思われていると生活出来ないの、知ってもらいたいという気持ちは最初、強く持っていました。今は、テレビ番組でLGBTQなどを放送していますので、だいぶ浸透してきており、特に小中学生の子どもたちは、私が講演したときも素直に聞いてくれて、質問までされるような子もいるんですね。やっぱり全て世の中は変わってきたかなって気がします。

(委員長)

だいたい議論がなされたのではないかと思います、また意見があれば事務局に言っていただいて、お答えしていただければと思います。